

事業所名

療育型放課後等デイサービスこころ第1

支援プログラム

作成日

2026年

3月

13日

法人（事業所）理念		<p>①法人と事業所の組織を有効に機能させ、利用者、職員、保護者の意見を尊重し、利用者、職員の生活向上のため優れたアイデアは積極的に取り入れ、利用者の利益を優先する運営を行うよう務める。</p> <p>②利用者と職員がお互いに人間として尊重しながら、利用者一人ひとりにあった生活をし、生きがいをもって暮らすことができるよう務める。</p> <p>③保護者、地域社会との交流を密にすることにより、皆から親しまれる法人を目指す。</p>					
支援方針		<p>①集団療育の中で個々にも焦点を当て、ステージごとの課題解決に向けた支援に力を入れていきます</p> <p>②将来を見据え、年齢期に様々な生活体験や、生活能力向上のために専門的な療育活動を通して生活の基盤を身に付け、就労・地域生活に繋がります</p> <p>③子どもの成長と共に生じる環境の変化、解決すべき課題に応じて、関係機関と連携し統一した支援を行えるよう務めます</p> <p>④家庭や学校では味わうことができない経験を通して、一人一人の力を引き出し、将来の生活設計ができるようになります</p> <p>⑤同世代の友達と過ごす時間を楽しむようにすることや本人にとっての「楽しみ」を見つけられるように支援します</p> <p>⑥地域や社会との関わりを大切にします</p>					
営業時間（平日）		12時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	有
営業時間（土曜）		10時	0分	16時	0分	送迎実施の有無	有
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の日中活動の場に向けて、生活能力の基盤を作ることができるようにする</li> <li>・集団生活の場において、周りと一緒に行動することや、身だしなみ、物品の管理、排泄のコントロール等、身辺自立の獲得を目指す</li> <li>・定期的かつ定時に通所することで生活リズムや決まった流れの体得と安定を促す</li> <li>・活動室内に写真や絵カード等を掲示したり、個別のスペースを定め、構造化を意識したレイアウトを設定する</li> </ul>					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手先の操作（つかむ、千切る、引っ張る等）課題（はさみ、封入作業、ひも通し、シール貼り、小物組立て、ブレスレット作り等の作品作り）を通して、個々の得意なことや好きなことを引き出し、取り組める作業を増やす</li> <li>・感覚遊び等から、適切な感覚情報をキャッチし、情緒の安定や日常的な生活の確立に繋げる</li> <li>・模倣運動やダンス等の粗大運動を行い、自ら身体を動かす機会を設けることで運動能力や平衡感覚を育めるようにする</li> <li>・姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善</li> <li>・視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚活動</li> <li>・音楽に合わせて身体を動かす遊びや、ストレッチ、ラジオ体操等の簡単な運動</li> <li>・バランスボールでの姿勢保持</li> <li>・ビジョントレーニング</li> </ul>					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストや写真等の指示書で情報を得て、自ら行動できる力を身に付けられるようにする</li> <li>・タイマーや時計等のツールを使用して、行動の切り替えができるようにし、見通しを持って活動できる経験を積む</li> <li>・日付、天気、時間等の概念と感覚認知の形成</li> <li>・TEACCHやPECSによる1日のタイムテーブルの確認による時間の認知形成</li> <li>・粘土、スライムによる物質の変化と感覚の認知形成</li> <li>・ABAによる応用行動分析で問題行動へアプローチをし、よりよい行動を増やす</li> <li>・認知行動療法による、感覚・認知の偏りに対するアプローチ</li> </ul>					

本人支援	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に応じたコミュニケーション方法（口話、手話、筆談、絵カード等）で、他者に意思表示できる機会を活動の中で取り入れる</li> <li>・発達段階に合わせた報告・連絡・相談といった、コミュニケーションスキル手段のやり取りを日々の活動の中で大切にする</li> <li>・トラブル時や困った時の対応等、コミュニケーション、社会性のスキルとして身に付けられるようにSSTやロールプレイを行い、対処方法の練習等も行う</li> <li>・文字・記号、絵カード、タブレット機器等の適切なコミュニケーション手段を選択・活用</li> <li>・個別課題で特性に応じた読み書きの練習</li> <li>・PECS等によるコミュニケーションのスキル向上の訓練</li> </ul>	
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団活動を通して、友達と協力して物事に取り組む経験を積んでいくことで他者意識の芽生えとなるように支援する</li> <li>・公共機関を利用して外出する機会を設け、社会のルールやマナーを学ぶ</li> <li>・レクや遊び、職員との関わりの中で、アタッチメント（愛着）の形成、他者への関心、共感性、協調性、自己主張、我慢する力、ルールを守る力などを育む</li> <li>・イベントを通じた地域との交流金銭やICカードの使用も併せて練習し、将来のIADL面のスキルに繋げる</li> </ul>	
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や学校、事業所での支援方法を共有し、統一した支援を行います。必要に応じて、半年に1回の面談とは別に、個別に面談する機会も設けます。</li> </ul>	移行支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での実習内容を基に、事業所でも進路先に沿った課題を提供します。</li> <li>・必要に応じて、実習先や就労先へ情報共有を行い、移行支援に繋がります。</li> </ul>
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援事業所、学校等の機関と連携し、子どもの状態や支援内容等について情報共有を行います。</li> <li>・地域資源の相談についても、相談支援事業所等と連携し、提案を行います。</li> </ul>	職員の質の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・強度行動障害支援者養成研修（東京都福祉局）</li> <li>・接遇研修、メンタルヘルス研修等（（福）福利厚生センター）</li> <li>・虐待防止研修（法人研修）</li> </ul>
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもまつり、ハロウィンパーティー、クリスマス会、遠足、外出活動</li> </ul>	